



加藤 敏彦 議員

防災対策の見直しは

えている。

質問

佐織地区の防災無線は、いつまで使用できるか。受信機の機能はいつまであるか。

総務部長

平成25年度ぐらいい「デジタル方式で整備すると屋外拡声機は、若干空白が生じる。

戸別受信機は、コミュニティFMを導入した場合でも空白なく切りかえができる。

質問

防災メールは、携帯電話を持っている聴覚障害者の方には大変有効であると思うが、登録状況はどうか。

福祉部長

聴覚障害者の手帳の所持者は160人ほど。手話通訳の人に聞いたら、若い人は携帯電話が扱えるので随分登録されているが、年配の方は困ったと言っている。

質問

海拔ゼロメートル地域で



は、高い所に避難所の確保が必要。民間の避難所について、「話を聞いてもよい」が17件との答弁だが地域的にはどうか。

総務部長

地区別の数について、佐屋地区が9件、立田地区が5件、八開地区が1件、佐織地区が2件である。

質問

佐倉市の視察では、避難所

に発電機と、ろ過器を備えた防災井戸が大変役立つと聞いたが、市でも整備できないか。民間の井戸の状況と災害時の対応はどうか。

総務部長

53力所ある避難所に井戸を掘るといふ考え方は持っていない。民間の災害用の井戸は58件ある。現実にそれが生きているかどうか、追跡調査をしていない。

質問

防災対策の見直しについて、東日本大震災は、千年に一度の災害を想定したものをつくらなければいけないことを示している。市はどこまで対応がされているか。

総務部長

情報として来年、修正部分公表されるよう聞いている。市として内部でよく議論しなければいけない。防災計画として独自に取り組んでいける施策は、順次取り組んでいく。

質問

今年度、愛西市は防災無線の整備を検討されているが、市の整備方針はどのようになるか。

総務部長

来年度は詳細設計、平成25年度から整備に向けて進めていきたい。

屋外拡声機の立てる柱は、愛西市全域で130本くらい必要。戸別受信機については、今4市2町で、クローバーテレビが主体となり進めているコミュニティFMが協議されている。一つの手法だとら